

第4回 沼津市総合教育会議 議事録

- 開催日時 平成28年2月9日（火曜日）10時00分～11時30分
- 開催場所 水道部庁舎 3階 会議室
- 出席者 市長 栗原 裕康
教育委員長 細沼 早希子
委員長職務代理者 三好 勝晴
教育委員 土屋 葉子
教育委員 川口 浩史
教育長 工藤 達朗
- 協議・調整事項
 - (1) 「沼津市教育大綱」の決定について
 - (2) 重点施策について
 - (3) その他

【内容】

1 開会

2 市長挨拶

教育委員の皆様方には、それぞれお忙しい中、第4回沼津市総合教育会議にご出席をいただき、ありがとうございます。

総合教育会議は、今年度からスタートし、今回で4回目となります。予定としましては、今年度は本日が最後となります。

先程、司会からご案内がありましたように、今日は、これまで議論をしていただきました「教育大綱」を決定したいと考えています。

また、先月、東京で12回目となる「夢ある人づくり塾」が開催されました。今までは、主に教育長が、本市に縁のある有識者の皆様からご意見をいただくものでしたが、今年度から総合教育会議が設置されましたので、今後は私に対しても、大所高所からご意見をいただきたいと考えています。

メンバーは、スルガ銀行の岡野社長、東京大学監事の杉山さん、県の教育委員で増進出版社顧問の加藤さん、JAXA准教授の曾根さん、また、今年度からSBSアナウンサーの水野さんに入ってください、本市の教育についてご意見をいただきました。今回は、特に、英語教育や市立高校についてご意見をいただきましたので、そこでの意見等は、この会議の中でも出てくると思います。

限られた時間ではありますが、活発なご議論をしていただきますようお願いいたします。まして、挨拶とさせていただきます。

3 協議・調整事項

(1) 「沼津市教育大綱」の決定について

資料2 「沼津市教育大綱（案）」に関する意見募集の結果についてに基づき、政策企画課長から提出された意見の内容及び意見に対する考え方について報告。

(委員)

大綱（案）に基づき、会議にて市長の考えを伺いながら、議論を重ねている。この大綱（案）の方向で良いと思う。

(委員)

当初より、考え方の方向性は同じだと思っている。この案にて決定で良いと思う。

(委員)

道徳教育が重要だと思っている。基本的な方策にはそのような内容も読み取れる。

(委員)

本市には、平成27年3月に改訂した「沼津市教育基本構想」があり、教育について、様々な観点から広く大切なことを定めた構想である。これと教育大綱を併せて、本市に豊かな教育をもたらすものだと考えている。

委員からも修正等に関する特段の意見はなかったもので、市長、本案を教育大綱の決定版とすることでよろしいか。

(市長)

はい。

(委員)

今後は、この教育大綱に基づき、市長と教育委員会がこれまで以上に連携して、教育行政を推進していくことが重要となる。

(2) 重点施策について

① 資料3 大綱の「基本的な方策」と教育委員会事務局業務等との関連に基づき、教育企画室長から大綱と関連のある平成28年度新規事業を中心に説明。

(市長)

教育大綱の内容を反映するための平成28年度事業としては、英語のコミュニケーション能力の育成に関する事業が新たに設けられている。

(委員)

新規事業のイングリッシュアドベンチャー事業及びイングリッシュデビュー事

業について、具体的な実施内容を伺いたい。

(学校教育課長)

イングリッシュアドベンチャー事業は、ALT10人程とボランティア等に参加してもらい、小学5年生から中学2年生100人ほどを対象として、夏は屋外での調理やレクリエーション、冬は屋内で、クリスマスの飾りつけやレクリエーション等を行う。夏と冬に1回ずつ、1日、日本語を一切使わず、オールイングリッシュで英語を現実の社会で使っていく。自分が小学1年生から学んできた英語が設定された授業の外でも通用するのか、初めて会った外国人に自分の英語が通用するのか、その実感を通じて、さらに英語を学んでみたい、使ってみたいという意識を育むことを目的としている。夏・冬100人ずつ、市内の小中学生から募集し、申込みが多い場合には抽選になると考えている。

(委員)

小学校における英語の授業は、何年生から実施しているのか。

(教育長)

小学1年生からALTとの授業を行っている。この事業は普段の授業から抜け出し、知らないALTやボランティアの方々と活動を通じて、生きた英語を学ぶもので、また、同時に小学5年生から中学3年生までを対象としているので、異学年の交流にもつながる。基本的には無料で、保護者の負担は実費程度に抑える予定である。

(生涯学習課長)

イングリッシュデビュー事業は、0～3歳児とその保護者を対象として、音楽や体操などを通じて、英語を聞きながら身体を動かすことにより、英語に慣れ親しんでもらうことを目的に実施する。英語の習得には、乳幼児期から慣れ親しむことが重要であるが、保育園・幼稚園では、既に英語に親しむ機会が設定されていることから、市としては、入園前の手薄い部分をカバーする必要がある。市内を大きく中央、西部、南部、北部の4つの地域に分けて、地区センターなどを使って、1回に約50組、各地区3回ずつの開催を予定している。講師は、幼児教育の専門家に依頼し、必要に応じて補助者をつけたいと考えている。広報等で募集し、申込みが多い場合には抽選になると考えている。

(市長)

みんなで受けよう！英検事業、イングリッシュアドベンチャー事業、イングリッシュデビュー事業の3つの事業は、教育委員会事務局だけでなく、英語塾の先生など、外部の民間企業の方々の意見も聞き、さらに予算金額の面においては、財政課と協議を行うという政策決定を経て実現に至っている。

(委員)

ALTの外国人の先生の授業を授業参観で見たことがあるが、とても元気な先生で、子どもたちが弾むような感じで授業を受けていた。英語を母国語としている先

生に依頼すべきだと思う。

(生涯学習課長)

ボランティアで活動している団体等から情報を得て検討したい。

(教育長)

子どもが言葉を覚える時期に別の言葉に触れるのと同時に、保護者の方が啓発されるのではないかという狙いもある。また、保育園や幼稚園で行っているプログラムにつながっていくと良いと思う。

(委員)

英語ばかりではなく、日本語、国語もしっかり勉強してほしい。

(委員)

「住んだところ」、「住んでいるところ」、「住むであろうところ」を愛する教育も重要だと思う。

沼津を好きになるよう強制することはできないので、我々大人が楽しそうにしていることが大切だと思う。また、郷土読本「沼津」を用いて、沼津の歴史、沼津の文化について学ぶ機会を設けることも効果的で、こういったものをきっかけとして、地元を愛する心を養う教育を学校教育の中で推進していただきたい。

もう一つは、生涯学習課の事業で成人式を実施しているが、本市では会場分散型で行っており、地域の方々が成人した子どもたちにお祝いの声をかける姿が見られるなど、非常に良いと思っている。

また、第五校区でおやじの会を始めて12年が経過するが、小学校でキャンプなどを行っており、それに参加した子どもたちは成人を迎えた子もいる。おやじの会に何かをしてもらったと記憶が残っているのではないかと思う。子どもたちと話し合いをする機会を設けて、双方向の活動ができればいい。

(学校教育課長)

郷土読本「沼津」は、主に市内の社会科の教諭が編集している。小学3・4年生の社会科で地域の学習に使ったり、中学3年生では、自分たちのまちづくりについて考える学習に使ったりしている。また、がんばる学校応援事業や総合的な学習の時間の中で地域の歴史や文化、産業について学習する際に使用している。そのほかにも、様々な授業等で活用している。今後もいっそう活用が図られるよう、各学校に呼びかけていきたい。

(市長)

新成人議会も18回行っているが、それも一過性のもので終わってしまう。そのフォローということが非常に大切で、例えば、メルマガを送るなど、色々な形でフォローしていく必要がある。沼津につなぎとめておくために何をしたらいいのかという視点は大事なことだと思う。

(委員)

今年は、高尾山古墳の件で、歴史的にも沼津が日本中から注目された年で、基本

的な方策の最初に出てくる「豊かな自然の恵み」とあるが、これこそ、沼津が古くから発展した大きな要因である。文化的で歴史の深い地域であることを子どもにも、市民にも知ってもらうことによって、観光客の誘致だけではなく、まず市民に広くこの土地のすばらしさをわかっていただく方向で進めていただけると、沼津の発展のためになるのではないか。

(市長)

高尾山古墳は、東日本で最も古いクラスの古墳で、それが沼津にあったということは、古代の東日本の中心が沼津であったのだろうということになる。沼津が一番豊かだったという証拠である。このことは市民にも、積極的に知ってもらいたい。

(委員)

職場に体験学習の一環で子どもたちが訪れ、仕事を体験した感想文を書いてもらうと、ほとんどの子どもたちがありがとうと言われたことが嬉しかったと書く。お年寄り子どもたちに何かをしてもらえばありがとうという言葉が自然に言う。大人がそういうことを当たり前に行っていないといけないと改めて教えられた。高齢化社会が進行する中で、学校だけではなく、地域でもできることはやるような施策を検討していただきたい。

(委員)

お年寄りのために何かをして、それに対してお年寄りがありがとうと言う。ありがとうと言われれば嬉しくなるという人との共感を通じて命を大切に作る心も育まれてくるのだと思う。

(委員)

生活の基盤となる企業がなければ、移住も難しい。沼津には色々な産業があり、ものづくりにしても優秀な企業が多く、それを紹介する本が作成できないか。

中学校ではキャリア教育の一環で、学校の近所の企業等に依頼し、2～3日職場体験を行っているが、市内のすばらしい企業のことを小中学生が知らない。我々大人も知らない。そういう情報を伝えることが、子どもたちの将来を考えるヒントになることもある。商工会議所などの協力をいただいて、行政の方から色々な分野の産業を集約する方法はないのか。

(教育長)

本市では、「沼津大志学習プラン」の中で職場体験を位置づけ、また、がんばる学校応援事業等を利用して、民間企業の方に講演を依頼するなどしている。

教育委員会と産業振興の部局が連携を図りながら実施していく必要がある。

また、最近の子どもたちは、比較的受動的である。子どもたちに体験させることが大事だと思う。能動的に体験することで知識が知恵になるので、積極的に進めていきたい。

(委員)

数回の総合教育会議を通じて、とても風通しが良くなったと思う。学校のいきいきスタッフの予算もつけていただき、総合教育会議における意見が反映され嬉しく思う。これからもこの会議の席で、市長の耳に色々なことを入れさせていただきたい。

(2) 重点施策について

② 資料 4 沼津市学校配置の適正化検討委員会についてに基づき、教育企画室長から検討を進めている「学校配置の適正化」について、会議の内容や進捗状況等を説明。

(委員)

義務教育の環境を整え、基本的なことを学ぶ機会を整備しなければならないと思う。大変な作業だとは思いますが進めていかなければならない。

(委員)

平成 26 年度に静浦小中一貫学校が開校しており、児童生徒数が減少した地域において、市民の皆さんにお見せできる良い見本ができた。同じ様にはできないかもしれないが、子どもたちのために参考にして進めていただきたい。

(教育長)

学校配置の適正化検討委員会は、今後の沼津の学校教育の根幹の部分を考える非常に重要な委員会だと思う。大綱にも記載されているコミュニケーション能力の向上を図ることに大きく影響する。

これからの子どもたちが社会の中堅で活躍する際にどういう能力が必要であるかということ、もちろん英語も必要だが、日本語も重要で、特に人と人とのコミュニケーション能力が不可欠である。やはり、一定規模の子どもたちの触れ合いは大事だと思っている。

上級生と下級生と一緒に遊ぶ中で、色々な礼儀作法やルールを学ぶ。あまりに小規模だとそれが少なくなってしまうのだが、静浦の例では、小学 1 年生と中学 3 年生の交流は言葉ではなく、学校生活の中で、お互いに自然にコミュニケーションを学んでいる。

小規模だからすぐに統合ということではなく、学校は地域の文化的な中心の部分なので、地域のご理解を得ながら進めていきたい。

(委員)

検討委員会で議論をしているが、ある程度の情報を自治会にもアナウンスしていくことが大事だと思う。これを頻繁に行っていくことがスムーズな施策の推進につながると思う。

(委員)

今後 10 年くらいかけて進めていくのか。

(教育長)

早急に対応していかなければならないと考えている戸田地区は、10 年を待てないので早急にやる必要がある。その他にも、できるところから確実に地域のご理解を得ながら進めていきたい。

(3) その他

(委員)

先日、教育委員会で戸田地域活性化センター「くるら戸田」を視察した。入ってすぐ右側に、旧戸田村の歴史的なものが展示されているコーナーがあるのだが、その管理が疎かになっており、電気がついていない展示物もあった。文化振興課の方々が精魂込めて作った展示物が目に留まりにくいような状況になっていて、少し寂しい状態だった。市の方で指導するなどの方法は取れないのか。

(市長)

「くるら戸田」の運営管理形態が少し複雑で、建物は県との合築になっており、指摘の箇所は県の管轄に当たる。問題意識は持っている。あの場所は入口付近の良い場所なので、もう少しうまく活用できないか考えている。

さらに、海の方には、旧戸田村の造船博物館と駿河湾深海生物館があるが利用客が少ない。戸田地区全体を活性化する方法を考えなければならない。

(委員)

下田市では、黒船祭りを開催してPRしている。戸田地区ももっと積極的にPRを図るべきである。

(市長)

戸田地区では、毎年、港祭りを開催し、衣装を着た人がロシア大使館から参加してくれている。市民の皆様があまり知らないということは、私どもの宣伝不足である。

(委員)

総合教育会議が設置されて、年に数回、市長と教育について協議することになり、風通しがよくなった。ますます学校現場が大変になっていることを踏まえ、現実を伝えさせていただき、それについて議論できることが有り難いと思っている。

4 閉会